

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第270号 2022年4月1日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2022



キャンパス内に新学生宿舎 「お茶の水女子大学音羽館」

CONTENTS

学長からのメッセージ 1-2	教員紹介..... 7
● 未来を創る今を、共に!	● デアウカンタラ マルセロ先生 (基幹研究院人間科学系・准教授)
巻頭特集:キャンパス内に新学生宿舎 「お茶の水女子大学音羽館」... 3-6	卒業生紹介..... 8
● 音羽館建設の経緯と魅力 ～新井理事・副学長、学生・キャリア支援課 インタビュー～	● 河野 彰子さん (文教育学部 舞踊教育学科音楽教育学専攻 卒業)
● 寮生の意見を反映させた新寮に向けて ～国際学生宿舎自治会執行部インタビュー～	附属学校園からのお知らせ 9-10
● 入寮する学生の音羽館への期待	
● 学生寮の紹介(小石川寮・SCC)	



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

未来を創る 今を、共に！

お茶の水女子大学は、日本で初めての女性のための高等教育機関として1875年(明治8年)に創立され、2025年には150周年を迎えます。この歴史は、実に、アメリカ東海岸のセブンスターズと言われる女子カレッジであるマウントホリヨークカレッジ、スミスカレッジ、ウェルズリーカレッジ、バーナードカレッジ、プリンマーカレッジ、またイギリスのケンブリッジ大学の女子カレッジであるニューナムカレッジとほぼ同じ長さなのです。これらの大学は、まだ女性に参政権も認められていなかった時代に、女性のための高等教育の必要性が強く訴えられて誕生したのですが、その後、人びとの期待を裏切ることなく、使命感と実行力で教育、研究、政治、経済など様々な分野で活躍する数多の女性たちを育てたとされています。本学もまた同様に、その長い伝統ある歴史において常に社会とともにあり、社会の求める大学であり続け、教育・研究分野をはじめとして社会で活躍する多くの女性人材を輩出してきました。

教育の分野では、たとえば、東京女子大学、日本女子体育大学、十文字学園、桜美林学園の設立・発展に安井てつ氏、二階堂トクヨ氏、十文字こと氏、小泉郁子氏などが寄与されました。さらに、卒業生の会である桜蔭会は、関東大震災の翌年に新たな女子教育の場として桜蔭学園を設立しました。研究の分野では、保井コノ博士、黒田チカ博士、辻村みちよ博士、湯浅年子博士などが女性研

究者として国際的にも先駆的な役割を果たされました。現在、本学では博士らの名前を冠したお茶の水女子大学賞を設け、優れた研究成果をあげた女性研究者の顕彰をととして次世代女性研究者の育成を行っています。

21世紀の今、世界は大きく変化し、現代日本が目指すSociety 5.0(あるいは国際的にはIndustry 4.0)ではグローバル化、デジタル化が一層進み、経済発展とともに幸せで持続可能な社会の到来が予想されています。しかし、一方では気候危機、人口・食糧問題、富の偏在化による格差、新たなウイルスによる感染症の流行など、地球規模で解決されなければならない喫緊の課題にも直面しています。また、近年広く知られるところとなったSDGsこと「持続可能な開発目標」との関連では、国家レベルで、また地域や自治体レベルで細分化・具体化された多種多様かつ重層化された目標に即した複雑な問題も伴っています。これらの難題を十全に解決し、さらには新たな価値を創造するために多様な「知」が求められ、とりわけ女性の果たす役割が大きいとされています。

ところが、足もとを見ると、日本のジェンダーギャップ指数は150か国余りの中で120位(2021年)、OECD諸国の中で最下位と後れを取っており、政治・経済の分野に限らず、女性リーダーさらには、課題解決に欠かすこ

とのできないイノベーションにとって重要な理工系分野においても女性人材が少ないことが指摘されています。「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」ことをミッションとし、これまで長年にわたり女子教育に取り組んできた本学こそ、この分野においても先導的役割を果たしていきたい、また果たさなければならないと考えています。現在、本学では、このようなパーパスの実現のために、「共創工学部」(仮称)の設置準備を進めているところです。また、理工系分野における女性の活躍を広げるための嚆矢として、既に数年前から、初等中等教育における女性の理系への進路選択を支援する活動も行ってきました。

周知のように、私たちはパンデミックによって、ITなどデジタル技術の重要性について再認識させられることとなりました。そして、今後一層のICTやAI技術の開発・活用を通じてこそ、初めて来たるべき時代を生き抜き、日本のみならず世界の様々な課題を解決することが可能になるということを改めて理解したのです。そのため、私たちは、すべての学生が数理・データサイエンス等の素養を身につけ、さらには協働して、それを社会実装するパワーを創発し、持続的に人々のウェルビーイングに貢献するための能力(ケイパビリティ)を獲得できるような教育の基盤づくりに取り組んでいく決意です。

お茶の水女子大学は、創立以来、世界の人々と連帯し、文化の多様性を理解し、違いを認め合いつつ互いを尊重し、競い合い、協力して平和な世界を築くことのできる高度な教養と専門性を備えたマインドフルな女性リーダーの育成に邁進してきました。人新世とも称される現代、人類は国境を越えてつながり、広範な環境・社会問題の解決を模索し、誰一人として取り残されずにその人らしく生きられるコモンズの実現を目指さなければなりません。私たちは、新しい大学のかたちをととして、来るべき新しい未来の創造に皆さまと共に寄与していきたいと願っています。

2022年4月
お茶の水女子大学長
佐々木 泰子



キャンパス内に新学生宿舎 「お茶の水女子大学 音羽館」 ～安全・安心・快適・便利な大学生活～

Q 音羽館を建設した経緯や ねらいについて教えてください。

本学の日本人学部生と留学生が住まう国際学生宿舎（通称：大山寮）は築50年ほどを迎え、老朽化が進んでいました。そこで国際学生宿舎に代わる新たな学生寮として、音羽館の建設計画が立ち上がりました。この計画では、学生がキャンパス内で安全で快適な生活を送りながら、寮生との共同生活を通じて、自律した学びや交流を深めることを目指しました。長期に渡って安定した寮の維持管理を実現できるように、民間事業者が蓄積してきたノウハウを活かすPPP（Public Private Partnership）方式を取り入れて、2020年9月より建築工事を行ってきました。ついに学生を音羽館に迎えることが叶います。

音羽館は、大塚キャンパス内の附属図書館、大学生協、学生会館（Student Commons）を含む一帯の中に建っています。また、音羽館に附設させるかたちで新しい課外活動施設も建てられました。音羽館を中心として、学習や学生間の交流を支援するゾーンが完成します。さらに避難所である大学運動場まで音羽館から一本道でつながっており、防災の点でも好立地です。

Q 音羽館の建築デザイン面の 特徴はありますか。

まず建物外観について、エントランスや居室を区切る外壁にお茶大カラーがアクセントとして散りばめられています。外観デザインはお茶大SCC（Student Community Commons）学生寮と統一感をもたせたものになっています。

音羽館の南側テラスには、自然を感じられる空間を用意しており、休憩や読書をするのにちょうどよいでしょう。春には枝垂れ桜を楽しむことができます。また、本学こども園の幼児が散歩に訪れることもあると思います。子どもたちとのふれあいも楽しめる憩いの空間になればと期待しています。

音羽館の内部については、快適な居室になったことだけでなく、国際学生宿舎における11.7㎡から14.5㎡へと広がったことも特徴の一つと言えます。7階建ての音羽館の各フロアには、コンセプトルームOCHA-no-MA（畳の間、シアタールーム、ミーティングルームなど含む）を共用施設として導入したり、軽食販売コーナーや飲料の自販機を設置したりするなど、寮での生活が快適になるような工夫を施しています。

2022年4月から大塚キャンパス内に開寮するお茶の水女子大学音羽館（おとわかん、以下、音羽館）の魅力および学生・キャリア支

援課の戸田浩子課長と河野隆様からお話を伺いました。

Q お茶大生へアピールしたいことや 期待していることを聞かせてください。

音羽館は、キャンパスの中心に隣接し、高台の上に位置する珍しい学生寮です。図書館や教室・研究室や課外活動施設が生活圏内にあることになりまますので、勉強やキャンパスライフを存分に楽しむことの手助けになるでしょう。

音羽館の建設期間には、学生アンケートによって貴重な意見をいただきました。たとえば家賃補助の希望が多く寄せられましたが、検討の末、奨学金の給付を実現して、様々な経済的背景の学生が音羽館を利用しやすいようにすることができました。このように学生や寮生委員会から意見をいただきながら、よりよい音羽館となるよう今後も模索したいと考えています。

Q 読者の皆様に メッセージをお願いします。

キャンパスに足を運んでいただき、音羽館や周囲の様子を知っていただきたいです。キャンパス内には、音羽館の他にも、歴史ある大学本館や、先進的な国際交流留学生プラザなどの魅力的な施設があります。本学のことをより詳しく知っていただき、地域の方々、在学生や卒業生、そして未来のお茶大生とのつながりを豊かなものにしていけたらと思います。

聞き手：今泉修（人間発達教育科学研究所・准教授）



1階屋根

共用部や居室から見える1階屋根には、人工芝、タイルを使用し、意匠性に配慮しています。夜間には「お茶ねこ」をモチーフとした猫の影絵が投影されます。



OCHA-no-MA

「個」の空間を守りつつ「集団」で過ごす安心感を生み出します。各階の談話室には異なったコンセプトがあり、用途に合わせて過ごす場所を選ぶことができます。

3月9日に
音羽館開寮式を
執り行いました！



新学生寮「音羽館」についてご紹介

国際学生宿舎の 自治会執行部へインタビュー

この春、大山寮は閉鎖される運びとなり、音羽館へ移り住む学生も多くいます。新寮の誕生にあたって、寮生からの要望をとりまとめた自治会執行部の、現寮長(2年)池島愛由さん、現副寮長(1年)遠藤理紗子さん、前寮長(3年)大城麻菜さん、前環境担当(3年)香曾我部藍さんへお話を伺いました(役職および学年は2022年1月現在)。

はじめに、大山寮や自治会執行部について教えてください。

大山寮は学生による自治寮となっていて、自治会執行部の任期は6月~11月の前期と12月~翌年5月の後期に分かれています。閉鎖に伴い現在の体制は3月末で終了となります。

要望をとりまとめた過程について教えてください。

2019年前期より執行部役員と大学側で新寮に関して意見交換を行っており、2020年には、鍵の種類や遮光カーテンの希望、外部訪問者の扱いなどについて執行部の意見を大学側へ伝えました。

2021年5月の寮生大会終了後に「新寮に関するアンケート」を実施したところ、大山寮での生活を踏まえ、洗濯室の防音強化や備品の改善を求める意見などが挙がり、6月に結果を大学側へ報告しました。9月に執行部によるモデルルームの見学を行った際には、洗濯機の台数が少ないことを指摘し、後に台数の追加が決定しました。



他に、新寮にて実現につながったことはありますか。

2021年11月の寮生大会終了時にはキャンパス内にある食堂の、夜間利用に関する意見聴取も行いました。2022年1月現在では夜間営業の情報は出ていませんが、利用希望の声が多かったことを踏まえ、3月中旬からの昼間営業へつながったのかもしれない。

また、賃料の補填については寮生以外からも要望が多かったかと思いますが、奨学金の給付というかたちで実現につながりました。

最後に一言お願いします。

寮生からは、思い出が詰まった大山寮の閉鎖は寂しいという声もありました。ここで過ごした日々を忘れずに、大山寮を運営した経験を活かし、今後も実りある大学生活を送っていきたいです。

音羽館への期待や喜びの声が学生から寄せられました!

大山寮から移ります

音羽館は、大山寮と違って内装がおしゃれで、シャワールームとミニキッチンが居室にあります! 部屋から出なくても入浴や料理ができるなんて感動です(笑)

交通費も通学時間もかからず、気軽に図書館など学内施設に足を運べるのもとても魅力的です。寮の友人だけでなく、大学に来た友人とも気軽に会えたらいいなと思います。

大山寮より賃料は高いですが、それでも良心的な価格ですし、いいところがたくさんある寮だと思います! 春からの音羽館での生活が楽しみです。

今春から、キャンパス内に新設される音羽館で生活できることをとても楽しみにしています! 構内にあるということなので、通学時間が省略でき、その時間を自分のために使えるのが嬉しいです。音羽館には、コンセプトルーム「OCHA-no-MA」があるそうなのですが、シアタールームやフィットネススタジオを、ハウスメイトと利用するのが今はすごく楽しみです。

現在住んでいる大山寮を離れるのはとても寂しいですが、新寮で暮らせることに感謝して、充実した生活を送りたいと思います!

お茶大SCCから移ります

生活科学部人間生活学科 生活社会科学講座2年 山中千代美さん

今まで以上に勉学に励める環境が整うと思います。「OCHA-no-MA」にライブラリーが完備されていることも大変嬉しく、積極的に活用したいと思っています。ゼミや就活も始まり大学生活が忙しくなる3年生の時期から、安心できる場所がキャンパス内にあることに感銘を受けています。

部屋は個人で過ごせてプライバシーも保たれつつ、共用部分では寮生と交流出来ることにも惹かれます。コロナの影響で共同生活における交流という醍醐味をSCCでは満喫できなかった部分があったので、音羽館では学部や学年を超えたたくさんの人とコミュニケーションを取って大学生活を充実させたいです。音羽館での生活を通して協調性なども育み、成長したいと思っています!

(学年は2022年3月現在)

「さようなら国際学生宿舎」 ~今までありがとうございました~



写真提供: 本学歴史資料館

学生から感謝の思い (学年は2022年3月現在)

鮫島媛乃さん ライフサイエンス専攻博士前期課程1年

寮母さん、守衛さんには大変お世話になりました。毎日の「いってらっしゃい」「おかえり」の温かいお声かけが励みになりました。胃腸炎になって外出がままならなくなったとき、寮母さんが「何か必要なものがあつたら買ってこよう」といってくださり本当に心強かったです。寮母さん、守衛さん、どうかいつまでもお元気でいてください。

(2017年4月~2021年3月在寮)

葛西円さん ライフサイエンス専攻博士前期課程1年

大山寮での思い出は、ともに過ごした同級生の時間です。テスト期間には、暗記が大変な科目を夜遅くまで友人とエントランスで勉強しました。ときに休憩でお菓子などを食べ、何気ない会話をした時間が今では大変愛しいです。他にもキッチンで友人の誕生日を祝ったこと、実験等で忙しい時期に友人と協力してお弁当を作ったことなどが思い出されます。大山寮に入って、本当に良かったです。

(2017年4月~2021年3月在寮)

遠山藍夏さん ライフサイエンス専攻博士前期課程1年

入学してから半年後に入寮しましたが、友達ができ大学生活が一気に楽しくなりました。共用のキッチンで一緒に料理をしたり、それを食べながらお喋りした時間は私の宝物です。ホールで楽器の練習ができることもとてもありがたかったです。寮母さんや守衛さんは困った時に親身になってサポートしてくださいました。大山寮、いままでありがとうございます!

(2017年10月~2021年3月在寮)

国際学生宿舎の歴史

~長い歴史に幕を下ろします~

『お茶の水女子大学百年史』(「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会)によると、昭和20年秋に、東京都板橋区板橋町九丁目1602番地(現在は仲町2番1号)にあった元陸軍造兵廠の建物である橋寮を転用して、本校生徒を寮生とする話がまとまったことが、現在の第一寄宿舎「大山寮」の始まりのようです。

本学学生部(厚生課)の『学生生活実態調査(昭和59年度)』には、寮生から郷里等との電話連絡がとり易くなるよう電話を増設してほしいとの意見があったことが残されていました。寮に設置された電話は、郷里等とつながる大切な手段であったと思われます。

地理的に恵まれた立地であり住居費も安価で、親元を離れて仲間と生活を共にした、諸先輩方の大切な場所となりました。その思いは引き継がれ、実り豊かな宿舎生活となるよう寮生は尽力してきました。

その他の学生寮の紹介

お茶の水女子大学には、他にも2つの学生寮があります。

小石川寮



住所: 東京都文京区大塚 鉄筋コンクリート造4階建

主に大学院生向けの寮として建てられました。寮生自身によって運営されている自治寮で、自治会の仕事やフロアにおける役割が各自に分担されています。

お茶大SCC

-Student Community Commons-



住所: 東京都文京区大塚 鉄筋コンクリート造3階建

5人で1つの小さなコミュニティ、<ハウス>で生活を共にしています。ハウスメンバーが学部・学年・学科の異なる5人で構成されており、共に助け合って生活をするなかで、自己実現を目指すことができる環境です。

学生寮についてご紹介

教員紹介

Marcelo de Alcantara

デアウカンタラ マルセロ



基幹研究院人間科学系・准教授のマルセロ・デアウカンタラ先生にお話をうかがいました。先生は、学部では生活科学部人間生活学科学生活社会科学講座大学院ではジェンダー社会科学専攻（博士前期課程）ジェンダー学際研究専攻（博士後期課程）のご所属です。

Q1 お茶大に着任されるまでのご経歴を教えてください。

出身はブラジル・サンパウロです。高校卒業後、陸軍の士官学校に合格して通い始めましたが、すぐに中退してしまいました。1年後、大学受験をやり直して、サンパウロ大学という大学に入学し、5年制である法学部で勉強しました。大学5年生の時に大使館推薦による日本政府奨学金に応募し、国費研究留学生として採用されました。大学卒業後、母国の弁護士試験に合格しましたが、法曹のキャリアを断念し、大学院進学のため来日しました。当時はまだJALが地球の反対側まで飛んでいたため、サンパウロから飛行機に乗ってNY経由で成田、そして伊丹空港へと到着しました。大阪大学大学院で楽しい大学院生活を経て修士号・博士号を取得しました。その間には、3年間の大阪大学法学研究科での勤務も経験し、2012年にオ茶大に着任しました。

Q2 お茶大に着任されてから10年経ちますが、お茶大にはどのような変化があったでしょうか。

この10年間で、こども園も開設してキャンパス内で子どもたちの姿を見かけることが多くなりましたし、附属図書館や生協もリニューアルされたり、おしゃれなカフェもできたりして、さらに明るい雰囲気になってきた気がします。まもなく新学生宿舎もできるので、キャンパス内がより一層明るく賑やかになったら嬉しく思います。それから、お茶大生は相変わらず真面目で優秀な学生さんが多く、近年は21世紀生まれの学生さんが入学するようになり、新時代のスタートだなと感じたりします。また、教員の世代交代も進んでいる気がして、お茶大のこれからますます楽しみです。

Q3 これまでのご研究についてお話を聞かせてください。

私はこれまで特に比較法的な視点から親子関係に関する研究に取り組んできました。例えば、親の性別や婚姻状況と子どもの国籍取得についてですが、1980年代までは、日本の国籍法は「父系血統主義」を採用しており、日本人母親は原則として自らの子どもに日本国籍を与えることができず、日本人父親のみが子どもに日本国籍を与えることができました。1984年の法改正で「父母両系血統主義」に改められ、この不平等は一応解消されましたが、婚外子に関しては、日本人母親と異なり、日本人父親が婚外子に日本国籍を与えるためには、子どもを認知することに加えて子どもの母親と婚姻する必要がありますがありました。長く（2008年の最高裁違憲判決まで）続いてきたこの父母の身分行為と子どもの差別的取り扱いに関する議論の中で、私は父親の平等権に注目してアメリカとの比較研究を行いました。もう一つの研究では、生殖補助医療、特に国境を越える代理懐胎と親子関係に注目しました。代理懐胎を認めている国では、合法的に代理懐胎を実施して子どもが生まれたら依頼者夫婦がその子どもの法律上の親として認められますが、依頼者夫婦が子どもを連れて自国に帰国する際には、その親子関係が認められず、子どもの戸籍や国籍にかかわる様々な問題が発生しています。外国で合法的に実施された代理懐胎から生まれた子どもの身分関係が自国でどのように扱われているのかを分析することを試みました。

Q4 どのような経緯で、現在のご研究を専門にするようになったのですか。

学部時代に、母校のサンパウロ大学の法学部を卒業した最初の女性について大学紀要に論文を書きました。マリア・アウグスタ・サライヴァという女性は、私より100年前に卒業した大先輩です。女性蔑視が根強い時代に、唯一の女性として学び、母国の法曹界でパイオニアの

一人となりました。私はサライヴァ氏の人生の物語に魅力を感じ、卒業後にはジェンダー・家族と平等権をテーマとして研究者の道に進もうと思いはじめました。その頃に、日本で誕生した「男女共同参画社会基本法」の存在を知り、日本法や政策に関心を持ち、日本の大学院に進学することになりました。

Q5 これから注目される研究テーマ、あるいは今後取り上げていかなければいけない研究課題はどんなことですか？

最近では、家族形態の多様化が進んで従来の家族モデルに当てはまらない家族が増えているので、複数的な親子関係が注目されています。LGBT家族のような非伝統的な家族では、子どもと育ての親との間で長期間にわたり法律上の親子と同様の生活実体を形成してきたにもかかわらず、法律上の親子関係が認められないことが多いです。しかし、子どもの最善の利益を考慮すれば、法律上の複数の親が認められる余地があり、諸外国では実際にそういった動きがみられます。私の研究では、従来の親子関係を比較法的な観点から再検討して、法律上の複数的な親子関係について解釈論・立法論的な動向を分析し、日本法における議論への示唆を得ることを目指しています。

Q6 お茶大生に向けての、メッセージをお願いします。

最近では受け身の学生が増加傾向にあると言われてはいますが、勉強に関しても将来の進路に関しても周りからの指示や承認を待たずに主体的に行動し、自分の幸せはどこにあるのかと常に問いかけながらチャレンジする姿勢を持っていてもらいたいと思います。

文責：基幹研究院人間科学系准教授 西村 純子

卒業生紹介

Kono Akiko

河野 彰子

サントリーホール企画制作部長
／プロデューサー



1994年 3月 お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科音楽教育学専攻卒業。
1996年 3月 同大学院人文科学研究科修了。同年4月 サントリー株式会社（現サントリーホールディングス株式会社）入社。
2014年 サントリーホール企画制作部長となる。現代音楽の祭典「サントリーホール サマーフェスティバル」の制作、ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団の招聘などを担う。

Q1 サントリーホールの特徴や魅力について教えてください。

サントリーホールには客席数2006席を有する大ホールと、約400席の椅子が置ける小ホール（ブルーローズ）があり、ほぼ毎日異なる演奏会が行われています。1986年に建てられたこのホールは、スピーカーや電子機器を通さない「生」の音を美しく響かせることにこだわった音響設計となっていて、特にクラシック音楽の演奏会に適しています。

この自慢の音響空間のおかげで、多くの方々が、お客様として、また演奏家としてサントリーホールにいらしゃいます。「音楽」を中心に、さまざまな人が笑顔で集う場所であること。私にとっては、これがサントリーホールの最大の魅力です。

Q2 河野さんのお仕事について教えてください。

サントリーホールでほぼ毎日行われる演奏会のうち、年間約100公演はホールの主催事業です。私の属する「企画制作部」では、これらの公演を企画立案し、さまざまな準備を行って公演開催にまでこぎつけるのが仕事です。

仕事内容を一言で説明するのはなかなか難しいのですが、私の考える自分の仕事のイメージは「空想地図を描くこと」だと考えています。公演制作は、何もなかったところから「人様の時間をいただくための、なにか」を創っていかなくてはいけない作業です。また、コンサートや舞台の制作では、いろいろな人が介在し、それぞれのポジションで力を発揮します。バラバラな場所にいる仲間たちと一緒に目的地を目指す時に、目指す場所の「地図」があれば、自分も含めて迷子にならずに最大出力で進むことができます。もちろん、地図どおり進むのは簡単ではありません。時間をかけて現場をまわり交渉（時には議論も）する熱意と根性が必要ですし、全体を俯瞰し、ニーズやリスクをキャッチできる客観的な眼と経験も必要です。でも最も重要なのは、「こうなると、いいなあ」と妄想できるポジティブな思考ではないかと思っています。自分自身

が仕事を楽しむ、ということも含めて、何か面白いこと、すごいことの種を見つけて、たくさんの人に楽しんでもらいたい、というワクワク感もいつも持っています（これは、私自身の若さと健康の秘訣かも！しれません）。

Q3 ここに就職しようと思ったきっかけは何ですか？

大学1年の時に、たまたま学生課でサントリーホールでのお客さま内アルバイト募集の張出しを見つけました。軽い気持ちで応募したのがサントリーホールのご縁の始まりです。以来、大学生活のほとんどは、授業の後、夕方にサントリーホールのある赤坂へ行き、公演が終わってから夜10時過ぎに所沢の学生会館に帰る、という生活でした。世界のオーケストラからピアノ発表会まで、取捨選択の余地なく、いろいろな音楽会に立ち会った経験は、今もプライスレスの財産になっています。サントリーホールにやってくる外国人の演奏家やお客様にも刺激を受けて、ゲーテ・インスティテュート（ドイツ語の語学学校）にも通いました。

音楽に携わる仕事がしたいというのは中学生の頃からの夢でしたが、サントリーホールに就職したいと思ったのは、このホールが音楽だけでなく、音楽を介して「ひと」を大事にする精神に心酔したからです。携わる誰もがサントリーホールを好きになる、そんな不思議な魔力がサントリーホールにはあります。

Q4 感慨深いことや、仕事を続ける上で危機的だったことなどを教えてください。

昨年（2021年）は、サントリーホール35周年の特別事業がいくつも予定されていました。コンサートを開催するために、早いものですと4、5年前から準備が始まります。そんな中で、世界規模での新型コロナウイルスの感染拡大によって、これまでの社会常識が大きく変わってしまいました。私達の仕事も、最も根幹となる「集うこと」が否定されたショックはとて大きく、この2年間での演奏会の中止、変更によ

る音楽活動のダメージは計り知れません。公演を開催できた場合でも、様々な制限、我慢を観客も演奏家も受け入れなくてはならず、私自身も、自分の仕事の意義や音楽の価値について自問自答する悶々とした日々が続きました。

ただ、この未経験の困難の中で新しい発見もありました。会場でのコンサートに代わる策として始めたオンライン配信が、飛躍的に日常化しました。配信のおかげで、さまざまな理由で会場に足を運べない方にも音楽を届けることができるようになりましたし、遠くヨーロッパやアメリカの音楽家や関係者の「健在」を確かめたり、協力し合うことができるようになりました。視聴者からの顔つきコメントや反応をオンタイムで頂けることも嬉しい出会いです。今後、リアルな会場でのコンサートにもきっと良い相乗効果が出るのではないかと考えています。

コロナ禍の先行きが見えず、空想地図を描くのはなかなか難しいですが、希望の種は探し続けたいですね。

取材・文責：基幹研究院人文科学系助教 福本 まあや



わたしのオフタイム

「おうちタイム」では、ペランピングにはまっています。夕焼けをつまみにビールを飲んだり、夜中にストレッチしながら星座を探したり、空を眺めているのが好きです。昨年は国際宇宙ステーションの通過を肉眼で観ました！

附属学校園からの お知らせ

～附属幼稚園だより～

入園おめでとう

入園式は、新入園児にとっては初めて幼稚園に来る日ですが、年長組にとっても、幼稚園で「一番大きい組」になる最初の日です。大きい組になった嬉しさと、小さい組には優しくしようという気持ちでいっぱいです。感染対策でここ数年は入園式を一緒に迎えることはできていませんが、以前は年長組で花道を作り、入園児を迎えていました。

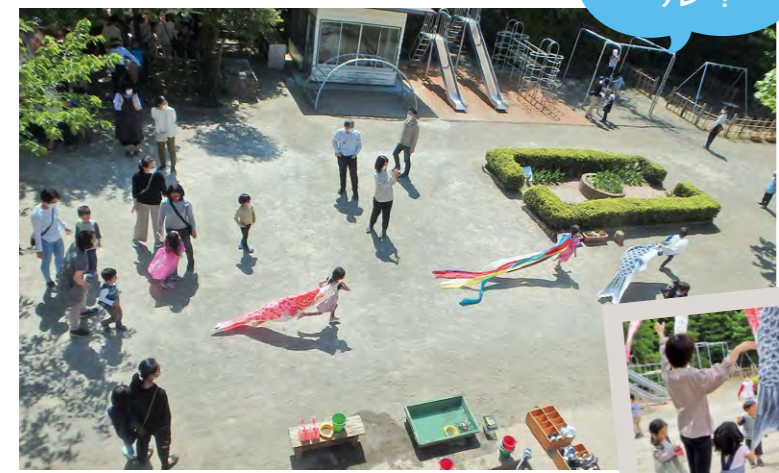
入園式の数日後、年長組はプレゼントを渡して小さい組に出向きます。年長組になったといっても、遊びたい気持ちが勝り、プレゼント作りになかなか気持ちが向かない人もいます。しかし、友達の様子を見たり先生からの励ましも受けたりして、当日は全員で小さい組の保育室に向かいます。

自分の作った大事な物を渡す行為の中に、「おめでとう」「幼稚園は楽しいよ」という気持ちもしっかりと含まれています。背中に隠す姿は「びっくりさせた方が喜ぶのではないか」という、自分のこれまでの体験から、相手に思いを馳せる、大事な気持ちの表れだと思います。

見えないように背中に隠して



幼稚園のなかまだね



こいのぼりリレー!

園庭のこいのぼり

少しずつ新しい生活に慣れてきた人、まだまだ保護者と離れたい人がいる4月中旬ごろ、園庭ではこいのぼりが泳ぎ始めます。2021年度は、5歳児の「親子で遊ぶ日」に、保護者や子どもたちに手伝ってもらい、園庭に綱を渡しました。翌日からは年長児と先生たちとでこいのぼりをあげました。地面すれすれのこいのぼりのしっぽから頭を入れて空を見上げたり、吹き流しをみんなで持ってくるくる回ったり、いろいろな楽しみ方をしています。3歳のクラスで、不安でいっぱいの男の子を担任が抱っこしてお外に出るこ

とが続いたある日、その子が「今日はこいのぼり、あるね」「今日はないね」など言うようになってきました。先生と一緒に同じ物を見て、感じてきたことで、動き出すきっかけとなったようです。少しずつ子どもは幼稚園で安心して暮らせるようになり、安心感の中で、やってみたいことを試したり、夢中になって取り組んだりしていくのでしょう。

保護者と一緒に準備しました



ふれあい動物園

例年ですと、4月は年長組が、5月は全学年が遠足に出かけていました。外に出かける体験は、新しい物、場所、出来事に触れるなど、みんなで同じコトを経験する大きな機会であり、とても貴重です。しかしコロナ禍ではどこにも行けません。2021年4月、年長組の子どもたちが段ボールなどを使って、「馬」を作り始めました。また、綿をビニル袋に入れて「ネコ」「うさぎ」など小動物も作っていました。先生たちは、本物に触れさせたい、園にはカメ以外の



段ボールの馬たち

小動物がいないので、動物園に行きたい、と思いましたが、コロナ禍では行けません。そこで「動物園を幼稚園に呼ぼう」ということになりました。当日はいずみナーサリーの子どもたちもお呼びして、ウサギ、アヒル、ヤギなどに触れたり、エサをやったりする体験ができました。もちろん馬(ポニー)にも乗れました。その時にやってきたモルモットを飼うことにもつながりました。

園での生活は、人と人とのつながりはもちろんのこと、コトとつながりながら進んでいます。一人ひとりの体験を丁寧に紡ぎながら、その先につながるよう関わっています。



ふれあい動物園

興味のある子どもがお世話しています

の時期」などと表現される園で過ごす子どもたちの生活は、「ある」と言われています。子どもたちの遊びや、

花道でお出迎え (2019年度入園式)



附属学校園での出来事 (2022年1月～3月)

【いずみナーサリー】

- 1月
 - 雪遊び
 - 避難訓練 (地震・食事中・室内待機)
- 2月
 - 避難訓練・初期消火訓練 (抜き打ち、火災、主任不在、屋外避難)
- 3月
 - 個人面談
 - 避難訓練 (抜き打ち、地震、室内待機または屋外避難)

- オンライン学習試行(2日間)
- 3月
 - 附中生のお話を聴く会(4年)
 - 卒業おめでとうの会
 - 郊外園ジャガイモ苗植え等(5年)
 - 校外学習(1・4・6年)
 - 保護者会(各学年)
 - 個人面談
 - 卒業式
 - 修了式

【附属幼稚園】

- 1月
 - 始業式
 - 春を祝う会
 - 教育実習事前指導(3年生)
 - クラス懇談会
 - 避難訓練
 - 3歳児 親子で遊ぶ日
- 2月
 - 豆まき
 - 1月・2月・3月 合同誕生会
 - 5歳児 親子で遊ぶ日
 - 5歳児 学内散歩
- 3月
 - ひなまつり
 - 卒業式
 - 3歳児・4歳児 終業式

【附属中学校】

- 1月
 - 始業式、路線別一斉下校
 - 特別時間割週間(1・2年)
- 2月
 - 入学検定・合格発表
 - 期末テスト(全学年)
 - 保護者会(3年)
- 3月
 - 音楽行事・歓送会
 - 自主研究発表会(2年)
 - 卒業式
 - 修了式・保護者会(1・2年)

【附属小学校】

- 1月
 - 始業式
- 2月
 - 公開研究会(オンライン)

【附属高校】

- 1月
 - 始業式
 - 大学入学共通テスト(3年)
 - 3年生2者面談
 - 学力テスト(1・2年)
 - 保護者会(2年 オンデマンド方式)
- 2月
 - 入学検定・合格発表
- 3月
 - 期末考査
 - 新入生説明会
 - 答案返却
 - 卒業式予行・歓送会
 - 卒業式
 - SSH生徒成果発表会
 - 修了式

附属学校園からののお知らせ



お茶の水女子大学学報 第270号

発行日：2022年4月1日

発行：国立大学法人お茶の水女子大学 東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105 FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp URL：https://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、本学ホームページにも
掲載していますので、どうぞご覧ください